

第266回くらしの植物苑観察会 令和3年5月22日（土）

千葉県産ウメノキゴケ科地衣類

坂田 歩美（千葉県立中央博物館 植物学研究科研究員）

地衣類は種類によっては都市部でも道端のコンクリートの上や街路樹の上など身近な場所に生育していますが、地衣類のことを知っている人はほとんどいません。大きさも肉眼で確認することが難しい小さい種類もありますが、肉眼でも簡単に確認できるような大きさの種類もあるのに不思議です。今回は、あなたの知らない地衣類の世界を紹介し、身近で見られるウメノキゴケ科の見分け方を解説します。

地衣類は菌類と藻類が共生関係を結んだ複合生物です。地衣類の体の中を覗いてみると、菌類と藻類が見られます（図 1A）。菌類は藻類に水などを提供し、一方、藻類は光合成産物である糖アルコールを菌類に与え、互いに助け合いながら共生しています。

地衣類の中でも大きな科の一つであるウメノキゴケ科は世界中から 3700 種ほどが知られ、熱帯から寒帯まで様々の場所に分布しています。形は葉状地衣類と呼ばれる葉のように広がるものと、枝分かれして樹木のような形になる樹状地衣類の 2 つがあります（図 1B & C）。緑藻のトレボウクシア *Trebouxia* 属の仲間と共生しています。

日本では本科は沖縄から北海道まで広く分布し、46 属 230 種が生育しています。

千葉県では主に暖温帯に見られる本科が 16 属 55 種生育しています。葉状地衣類は郊外に広く分布しています。一方、樹状地衣類は千葉県南部の房総丘陵を中心に限られた場所で見ることができます。代表的な種類としては葉状地衣類ではウメノキゴケ *Parmotrema tinctorum*、ナミガタウメノキゴケ *Parmotrema austrosinense*、マツゲゴケ *Rimelia clavulifera*、樹状地衣類ではツブコナサルオガセ *Usnea confusa* が挙げられます。

千葉県北部の下総台地中央部に位置する佐倉城址公園では 6 属 9 種のウメノキゴケ科地衣類が見られます。これらは千葉県の郊外ではよく見ることができる種類で、全て葉状地衣類です。この 9 種は、ルーペや肉眼でも簡単に区別できます。その同定のポイントも解説します。



図 1. ウメノキゴケ科地衣類。A, マツゲゴケの地衣体断面；B, 葉状地衣類のウメノキゴケ；C, 樹状地衣類のサルオガセ属の一種。

.....

次回予告 第267回くらしの植物苑観察会 令和3年6月26日(土)

「梅雨を彩る植物たち」(東京大学名誉教授 辻 誠一郎)

13:30~15:30(予定) 苑内休憩所集合 申込不要 定員20名